

三三五二番

信濃なる 須我が荒野に ほととぎす 鳴く声聞
けば 時過ぎにけり

三三五三番

亀玉の 寸戸の林に 汝を立てて 行きかつまし
じ 寝を先立たね

三三五四番

寸戸人の まだら衾に 綿さはだ 入りなましも
の 妹が小床に